

一期生・二期生の先輩方の合格・内定体験記

◇ 長崎大学教育部幼稚園教育コース

一期生・文理科(末吉中出身)

大学受験を振り返る時、逃げたい時、苦しい時も数え切れない程たくさんありましたが、合格を果たすことができたことをうれしく思うとともに、3年間支えて下さった先生方、家族、友だちへの感謝の気持ちでいっぱいです。高校生活を振り返ると、1年、2年次は最低限の量の勉強しかしておらず、3年生になった時、そんな自分自身にとっても焦りました。特に、私は部活動の引退時期が周囲の友人たちより遅く、本格的な受験勉強のスタートも遅れてしまいました。さらに、夏休みに入ってから受験生としての意識が低く、今思えば、自分が本気で変わったのは夏休み後半だったと思います。自宅の勉強部屋で集中できなかった私は、休日は都城市のウェルネス交流センターの自習室に友だちと通い、自宅では、他の部屋を勉強部屋に改造してもらい、スマートフォンを母に預けるなど意識的に学習環境を変えていく中で大学受験への意識を高めていきました。科目で苦労したのは公民科の現代社会です。私の志望校では受験必須科目ですが、3年次の文理科の教育課程にはない科目なので、放課後の時間を使って教科担任の先生から充実した個別指導をしていただきました。暗記が必要な科目は、覚え方を工夫し、何度も同じことを繰り返しながら基本事項の定着を図るとともに、苦手な数学については時には先生方を頼りにしながら対策を進めていきました。

本当に苦しい時期もたくさんありました。本気の努力を重ねても点数がなかなか上がらない時期。志望校の合格可能性が下がった時期。同じ問題を何度も間違っただけでばかりいた時期。そういう時は、春からの大学生活について思いを巡らせたり、一旦勉強をやめてリフレッシュしたりするなどやる気アップに努めました。後輩の皆さんにアドバイスしたいことは、下級生の時期から早め早めに復習をしていくことの大切さです。3年生になって改めて復習しようと思っても、1、2年次に学習したのに忘れていたことがたくさんありました。3年生で学習する新出事項を習得しながら、1、2年次の学習事項を鮮明に思い出しながら定着を目指すことは本当にたいへんです。

最後に、大学受験という厳しい戦いを通して、一番考えたことを後輩の皆さんに伝えます。受験勉強は困難なことの連続であり、一人きりで勉強

部屋にこもっていると孤独感を感じることもあると思いますが、皆さんの周りには、応援してくれている人がたくさんいることを忘れないで下さい。私の場合も、学級担任や教科担任の先生方、家族、苦楽をともにしたクラスの仲間、部活動の仲間や後輩などが応援してくれたり、支えてくれたりしました。大切な人がかけてくれる「がんばれ」という温かい言葉に何度も救われました。特に、家族は厳しいことを言いつつも、一番支えてくれました。いろんな場面で親身になって指導して下さいました。たしかに、受験はたいへんです。しかし、困難を乗り越えた時の達成感はとても大きなものであり、人間的な成長も実感できます。高校生活を振り返る時、とてもいい思い出になると思います。

後輩の皆さん、自分の目標に向かって精一杯頑張ってください。応援しています。



◇ 霧島酒造株式会社

二期生・機械電子科(財部中出身)

志望した理由は、元々地元就職希望で、機械電子科で学んだ知識を活かして働き、自分の技術を高め、地域や社会に貢献したいと思ったからです。受験に向けて本格的に取り組み始めたのは、夏休みからでした。ほぼ毎日登校し、履歴書の作成や面接練習に励みました。家に帰ってからは、学科試験に向けて毎日勉強しました。私の部署は、危険物取扱者乙種四類・二級ボイラー技士の資格を取得していれば、入社してからすぐに役立てることが出来ます。ぜひ、在学中に取得しましょう。後輩の皆さん頑張れ!!